

とうべつ

# 議会だより

No 187

平成28年11月1日発行

**財政再建進む**

..... P 2

**来年9月の開業に向け**

**大きく動き出す道の駅**

..... P 6

【目次】平成27年度各会計決算審査	2~5
臨時会（7月・9月）・定例会（9月）	6~7
総務文教常任委員会・産業厚生常任委員会	8~9
一般質問（8人）	10~17
議会広報研修会、議会のうごき、編集後記	18



重機が動き出し（仮称）北欧の風道の駅とうべつ建設現場が賑やかになってきた様子【10月5日撮影】

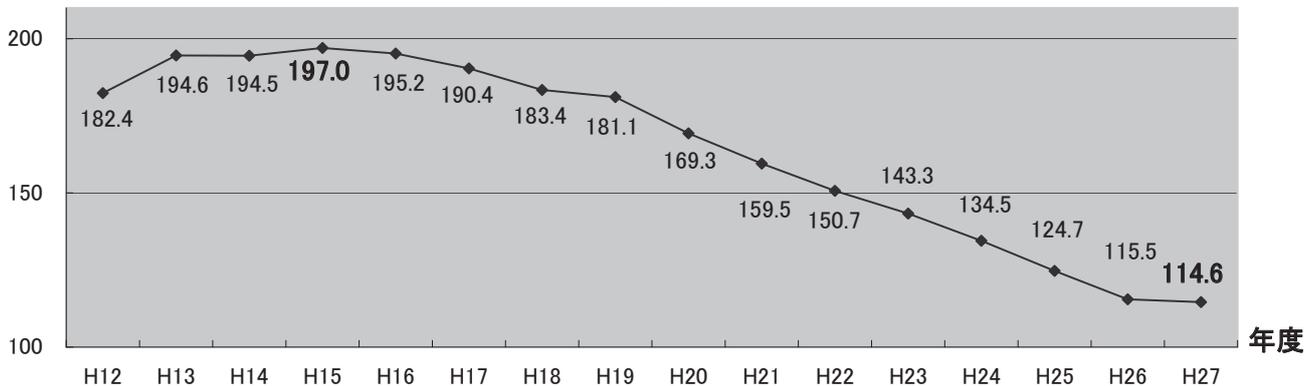
# 着々と減る当別町の借金（地方債残高） ピークから 82.4 億円減！！

## 平成 27 年度 決算認定

議会は、議長、高谷議員（監査委員のため）を除く全議員で構成する平成 27 年度当別町各会計決算審査特別委員会を設置しました。付託された一般会計と 5 つの特別会計歳入歳出と水道事業会計の平成 27 年度決算について、平成 28 年 9 月 20 日、21 日、28 日に審査を行い、原案のとおり認定すべきものと決定しました。

当別町が抱える借金である地方債残高は、平成 15 年度の 197 億円をピークに、平成 27 年度決算では、114.6 億円となり、12 年間で 82.4 億円減りました。率にすると実に 41.8% 減となります。他の市町村と比較すると、まだまだ財政状況が改善したとは言えませんが、着実に町の借金が減っています。

億円 地方債残高



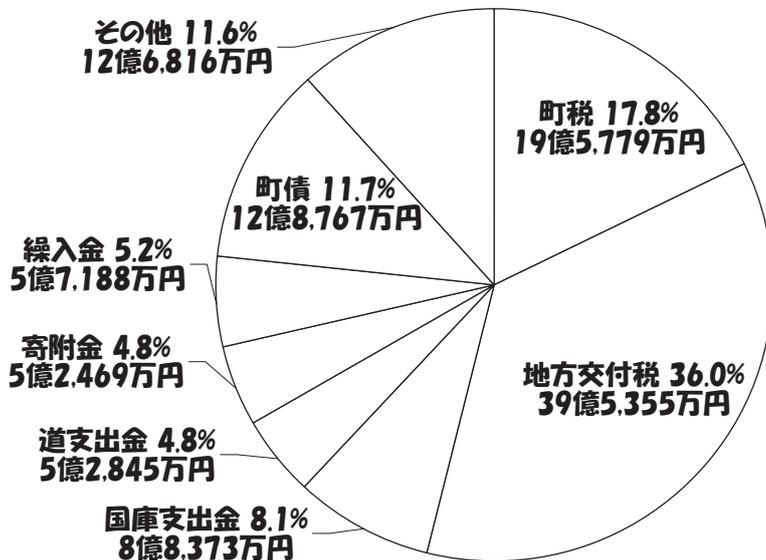
会計名	歳入	歳出	差引額
一般会計	109 億 7,592 万円	107 億 787 万円	2 億 6,806 万円
国民健康保険特別会計	24 億 8,706 万円	26 億 237 万円	▲ 1 億 1,531 万円
下水道事業特別会計	9 億 3,388 万円	9 億 2,463 万円	925 万円
介護保険特別会計	13 億 8,584 万円	13 億 5,419 万円	3,165 万円
介護サービス事業特別会計	7,203 万円	6,981 万円	222 万円
後期高齢者医療特別会計	2 億 522 万円	2 億 113 万円	409 万円

### 一般会計

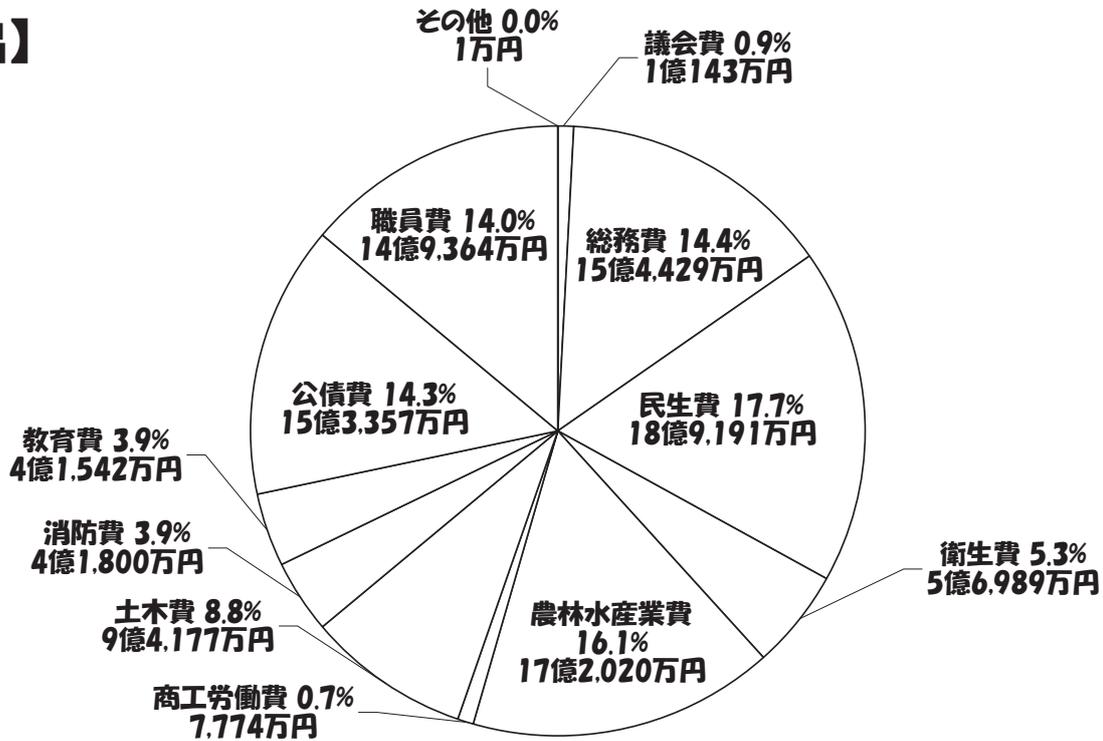
※ 1 万円未満四捨五入

※ 1 万円未満四捨五入のため、歳入歳出の差引と差引額が一致しない場合があります。

### 【歳入】



【歳出】



水道事業会計

※ 1万円未満四捨五入

区分	収入	支出
収益的収支(※1)	7億3,768万円	7億1,641万円
資本的収支(※2)	3,128万円	1億4,838万円

※1 収益的収支：  
安全な水道水を供給するための費用  
※2 資本的収支：  
水道施設を整備するための費用

◎当別町の「健全化判断比率」はいずれも早期健全化基準を下回っています！

項目	年度	平成27年度	早期健全化基準	財政再生基準	参考
実質赤字比率	—	—	14.27%	20%	2億3,345万円の黒字のため「—」で表示
連結実質赤字比率	—	—	19.27%	30%	3億2,991万円の黒字のため「—」で表示
実質公債費比率(3ヵ年平均)	14.7%	14.7%	25%	35%	平成25年度：16.1% 平成26年度：15.4%
将来負担比率	107.4%	107.4%	350%	—	平成25年度：125.5% 平成26年度：119.1%

実質赤字比率：一般会計等を対象とした実質赤字が税収などの財源の規模（標準財政規模）に占める割合を表した比率です。  
 連結実質赤字比率：当別町の全会計を対象とした実質赤字が税収などの財源の規模（標準財政規模）に占める割合を表した比率です。  
 実質公債費比率：一般会計等が負担する元利償還金及びこれに準ずる元利償還金等が税収などの財源の規模（標準財政規模）に占める割合を表した比率です。  
 将来負担比率：一般会計が将来負担すべき実質的な負債の現在の残高が税収などの財源の規模（標準財政規模）に占める割合を表した比率です。

◎当別町の「資金不足比率」はいずれも経営健全化基準を下回っています！

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準	参考
水道事業会計	—	20%	1億6,456万円の黒字のため「—」で表示
下水道事業特別会計	—	20%	925万円の黒字のため「—」で表示

資金不足比率：公営企業ごとの資金の不足額の事業規模に対する比率です。

# 平成 27 年度当別町各会計決算審査特別委員会

## 〈主な質疑内容〉

### 《総務費》

Q 当別ブランド推進事業のPRグッズ作成について、扇子とピンバッジを作成した数量は。また、どのように活用されたのか。

A 扇子は、300本作成し、国際交流事業の一環として、27年度、町長及び職員がスウェーデンへ訪問した際に活用し、次年度予定されている姉妹都市交流30周年記念でレクサンド市からの訪問団のお土産等に活用する予定である。また、バッジは、900個作成し、当別町を広くPRするノベルティグッズとして活用している。

Q(関連)この事業は、町外や道外の国内向けのPRを行っていると考えていたが、海外に向けてのPRを念頭に扇子を作ったのか。

A 町外及び道外の国内にとどまることなく、現在、海外資本の企業誘致なども積極的にとり進めている町の事情もあり、当然海外に向けてもあるという前提のもと作ったものである。

Q マイナンバー法施行に伴う基幹行政システム改修業務委託の当初予算、補正予算、決算額は。また個人番号カードの発行について、希望者と実際に発行した人の人数は。

A 当初予算額は、2,448万円で補正予算額が、67万1,000円の減額、決算額は、2,380万8,720円である。次に、個人番号カードの希望状況と発行状況は、28年3月末現在、申請数は1,352件で、そのうち実際に手元に渡った数は831件である。

Q 当別・レクサンド交流協会への夏至祭の補助金について、町内の消費拡大や地域の活性化などどのような効果があったか。

A 夏至祭での町内事業者による出店では、天気がよく好調なときで80万円、少ないときでは60万円くらいの売り上げがあると記憶している。総体的な効果とあわせるとこの補助金については、妥当性が高いと考える。

Q(関連)前年度の課題の改善については、実行委員会で検討していると思うが、町からは、課題の改善に対しどのようなアプローチをしているか。

A 実行委員会に町の職員も参画し、そこで改善の求めや議論を行っている。

### 《職員費》

Q 町長、副町長、教育長の手当での加算と部課長以上の手当て加算の総額は。

A 期末手当等の町長、副町長、教育長の役職加算額は、約276万円であり、一般職は約1,759万円である。

### 《民生費》

Q 27年度、町と夢の国保育園は、運営についての打ち合わせを何回程度行ったか。

A 日常的に連絡をとる体制をとっている。また、28年度からは、定期的に所長会議を設けている。

Q 高齢者クラブへの補助金は、当初予算が141万1,000円で、この節の不用額が約15万円であるが、当初補助金の交付を考えていたが、交付されなかった額がこの不用額に含まれているのか。

A 27年度は、140万7,836円を交付している。申請された単組で、交付していないクラブはない。

Q 高齢者等への除雪サービスについて、サービスを利用した世帯数とその金額は。

A 世帯数は、134世帯で、金額

は、約461万円である。

### 《農林水産業費》

Q 地域資源を活用した農業活性化事業では、具体的にどのような結果であったのか。

A まず、地中熱のボーリング調査を3ヶ所で実施し、青少年会館で26.1度、西当別コミュニティーセンターで24.3度、西当別中学校で18.4度であった。次に水耕栽培では、イチゴと葉物野菜を実証栽培し、イチゴは、花房までは確認できたが、湿度調整等からカビ、病気にかかり、試食までは至らなかった。葉物野菜は、総務文教常任委員会の皆様に試食していただいている。

### 《商工労働費》

Q 企業誘致促進事業について、企業からの問合せの対応や手前は、どのように行っているか。

A 企業誘致は、経済部の中の商工課が担当している。ワンストップ窓口という形で、色々な問合せに対応している。

Q(関連)企業からの問合せ件数と内容は。また、企業の要望は。

A 前年度から引き続き交渉しているところも含め、5件の企業と交渉を行った。問合せの内容は、用地の関係や土地利用に関すること、優遇措置に関することなど様々である。工業団地を確保できていないところが本町の弱いところではあるが、優遇措置に関しては、他市町村と比較しても遜色がないと評価していただいている。

### 《土木費》

Q 雪対策協議会への補助金の決算額が、3,393万円であると思うが、雪対策協議会の負担金はいくらか。また、補助金の支出については、生活道路排雪支援事業補助金交付

規則があるが、負担金の額と補助金の額との整合性は。

A 27年度の雪対策協議会の負担金は、1回という部分で、559万7,800円をご負担いただいている。また、規則では、掛かった費用の2分の1をそれぞれ協議会と町が負担し合って支出することが基本となっているが、ただし書き条文等で、その他町長が認めるところではそれ以外は町の負担ということが明記されている。27年度決算については、雪の量が多くなった分については2分の1以上の額を地域負担させることなく町の負担として負担軽減に努めたところである。

Q 町内会への公園管理の委託について、町内会から草刈り機の貸し出しや燃料の支給、消耗品の支給などの要望があったとの話であったが、それらは用意したのか。

A 草刈り機の貸し出しやそれに伴う燃料など、需用費の中で用意した。

### 《教育費》

Q 小中一貫教育推進のためには、保護者の理解も必要になると考えるが、どのような取り組みを行ったか。

A 保護者の方も含めた一般住民向けの教育講演会を開催し、

一貫教育に向けての周知を図った。また、今後についても同様な形で展開していきたいと考えている。

Q 平成27年度末の就学援助の対象者数とその割合は。また、要保護と準要保護の内訳は。

A 小中学校合わせ要保護は22名、準要保護は、169名、合計191名である。児童生徒数に占める割合は、約16%である。

### 《歳入》

Q コンビニや金融機関窓口での税金の収納について、例えば個人情報の取扱いに関する問題はこの1年であったか。

A 具体的に問題があるという情報は入ってきていない。

Q 住宅使用料の未納者と公営住宅の駐車場使用料の未納者は、同じ人が該当しているのか。

A 駐車場使用料については、春日団地のみいただいているが、比較的同じ人が多い。

### 《国民健康保険特別会計》

Q 健康保険証の発行に関する費用はいくらか。また、他の市町村で健康保険証と高齢受給者証を一体化している市町村があるが、費用削減効果の観点から見解があればお聞きたい。

A 発行に係る経費は、用紙代が約13万円、郵送料が約21万円である。また、健康保険証と

高齢受給者証の一体化は、毎年検討してはいるが、有効期限の違いや発行時の資格確認のタイミングが難しいことなどから見送っているところである。平成30年からの都道府県化の中では、一体化を基本として現在検討が進められている。

### 《介護保険特別会計》

Q 地域包括支援センター事業で地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みはあるか。

A 地域包括支援センター事業の中で専門部会を設置し、一般住民や専門職、民生委員などが昨年度は27回集まり、今後の地域包括ケアシステム構築に向けて取組んでいる。

Q (関連) その専門部会の中では、単に課題の共有だけではなく、実行的な将来に向けての議論などが非常に大切であると考えているが、議論をしっかりと進めていけるよう町から指導や方向性を示したり、協議したりしているのか。

A 地域ケア会議は、地域包括支援センターだけで行っているわけではなく、事務局は福祉課にある。課題の共有だけではなく、今後どのようなサービスが必要であるかなど検討し、進めている。



平成27年度当別町各会計決算審査特別委員会  
秋場委員長(写真左) 山崎副委員長(写真右)

### 起草委員会

委員長	石川和榮
委員	古谷陽一
委員	鈴木岩夫
委員	佐藤立

※決算委員会の審査結果報告文書を作成する委員会